
介護・医療改革の行方 ～2018年へ向けて～ 予防政策の視点から



千葉大学予防医学センター

国立長寿医療研究センター

近藤克則



Contents

- 二次予防から地域づくりによる一次予防へ
 - エビデンスはあるのか？
- 研究から普及のフェーズへ
 - 「見える化」システム
 - 都市型モデル開発研究
- 生涯現役/総活躍社会の実現を



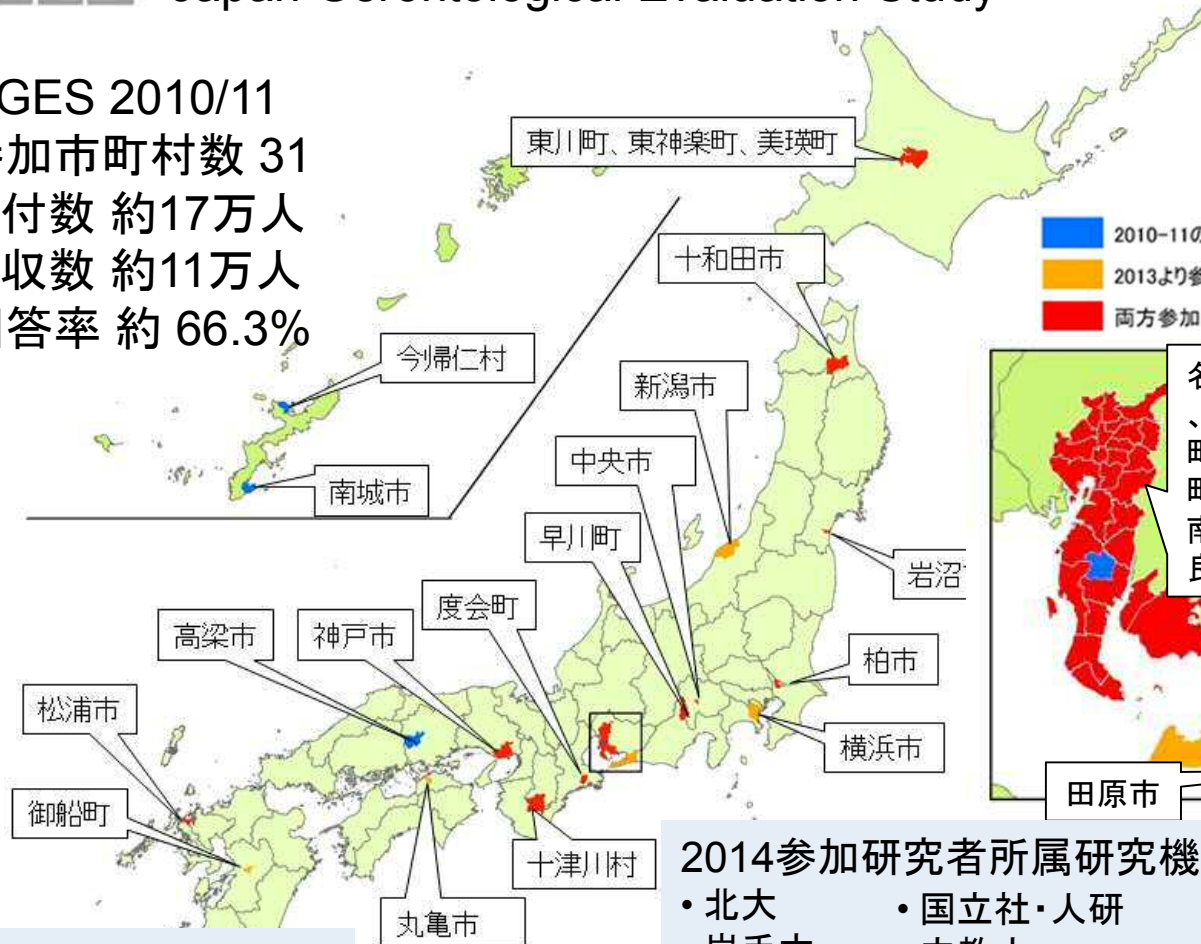


日本老年学的評価研究

JAGES 2010-13調査フィールド

Japan Gerontological Evaluation Study

JAGES 2010/11
 参加市町村数 31
 送付数 約17万人
 回収数 約11万人
 回答率 約 66.3%



JAGES 2013/14
 参加市町村数 30
 送付数 約19.5万人
 回収数 約13.8万人
 回答率 約 70.8%



JAGES 2016/17
 参加市町村数 40
 送付数 約30万人

2014参加研究者所属研究機関(○:事務局担当大学)

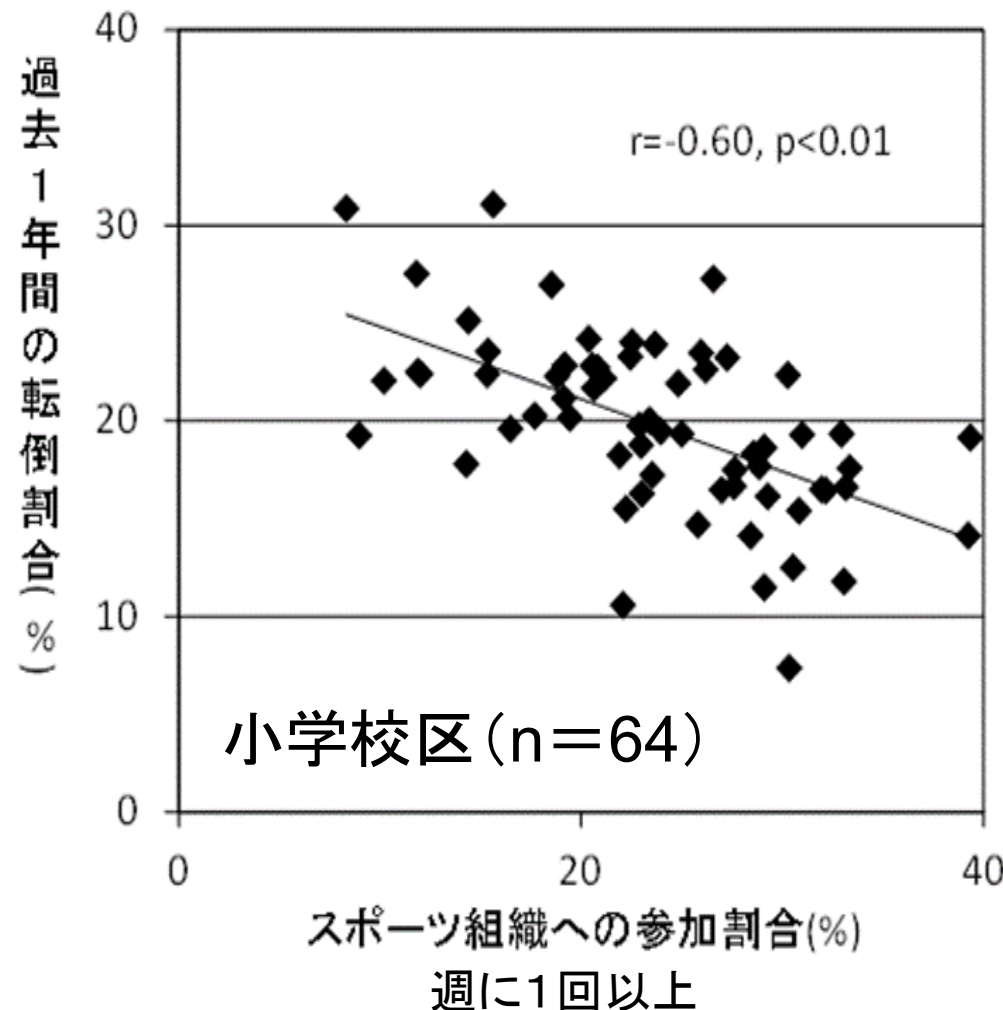
- 北大
- 国立社・人研
- ○浜松医大
- 東海学園大
- 岩手大
- 立教大
- ○日本福祉大
- 産業医科大
- ○東北大
- 神奈川歯科大
- 星城大
- 琉球大
- ○千葉大
- 山梨大
- ○国立長寿医療研究センター
- 愛知学院大
- ○東大
- 新潟大

本研究は平成22年度厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)の「H22-長寿-指定-008」および「H25-長寿-一般-003」ならびに科学研究費補助金 基盤研究A (23243070)等の研究成果の一部である

小学校区別転倒率とスポーツ組織参加

65-74歳, ADL自立者, うつなしの者16,102人に限定

林尊弘・近藤克則ほか, 厚生労働省の指標61(7):1-7, 2014



対象:6保険者(9自治体)の要介護認定を受けていない人で郵送調査に回答した29,117人(回答率62.3%)

転倒率:
7.4%~31.1%と4倍以上の差
スポーツ組織参加率と相関



社会参加と介護予防効果の関係について

スポーツ関係・ボランティア・趣味関係のグループ等への社会参加の割合が高い地域ほど、転倒や認知症やうつ病のリスクが低い傾向がみられる。

調査方法

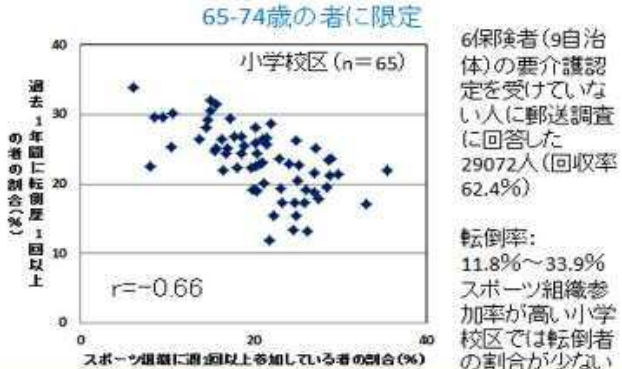
2010年8月～2012年1月にかけて、北海道、東北、関東、東海、関西、中国、九州、沖縄地方に分布する31自治体に居住する高齢者のうち、要介護認定を受けていない高齢者169,201人を対象に、郵送調査(一部の自治体は訪問調査)を実施。
112,123人から回答。
(回収率66.3%)

【研究デザインと分析方法】
研究デザイン：横断研究
分析方法：地域相関分析

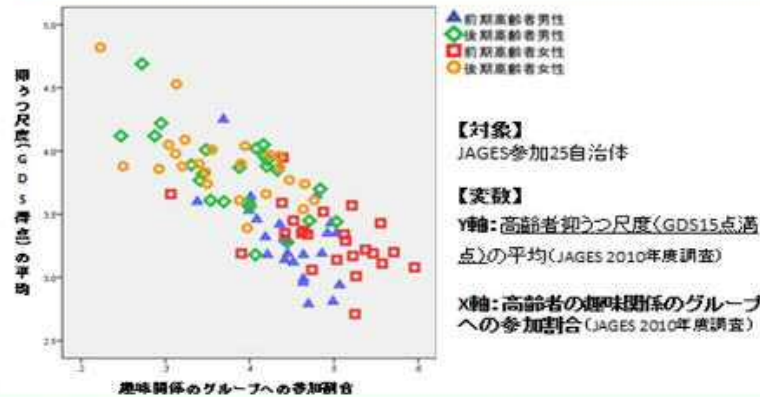
JAGES(日本老年学的評価研究)プロジェクト



スポーツ組織への参加割合が高い地域ほど、過去1年間に転倒したことのある前期高齢者が少ない相関が認められた。

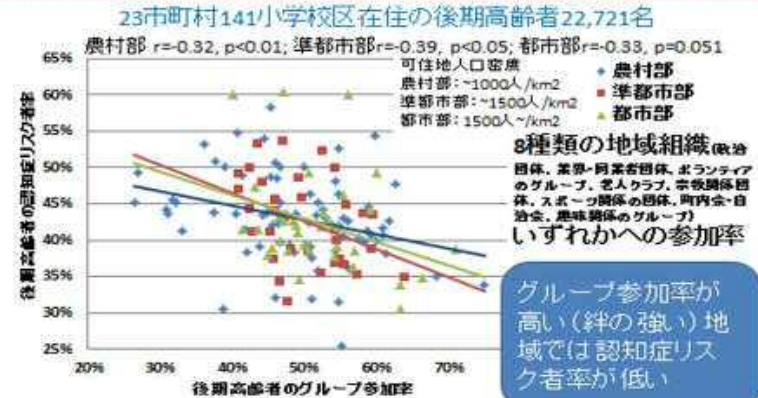


趣味関係のグループへの参加割合が高い地域ほど、うつ病点(低いほど良い)の平均点が低い相関が認められた。



図表については、厚生労働科学研究班(研究代表者：近藤克則氏)からの提供

ボランティアグループ等の地域組織への参加割合が高い地域ほど、認知症リスクを有する後期高齢者の割合が少ない相関が認められた。



ハイリスク戦略の限界と地域づくりによる介護予防の可能性示す→介護予防の政策転換

JAGES2013年調査データ

特定健診データ

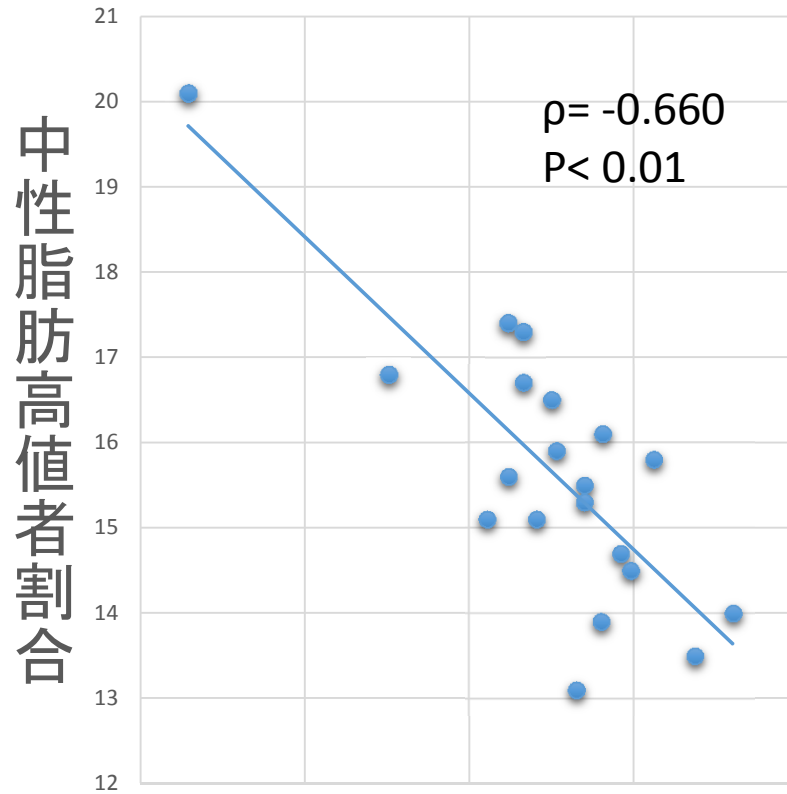
社会参加割合が高い地域ほど健康？

地域相関分析：前期高齢者

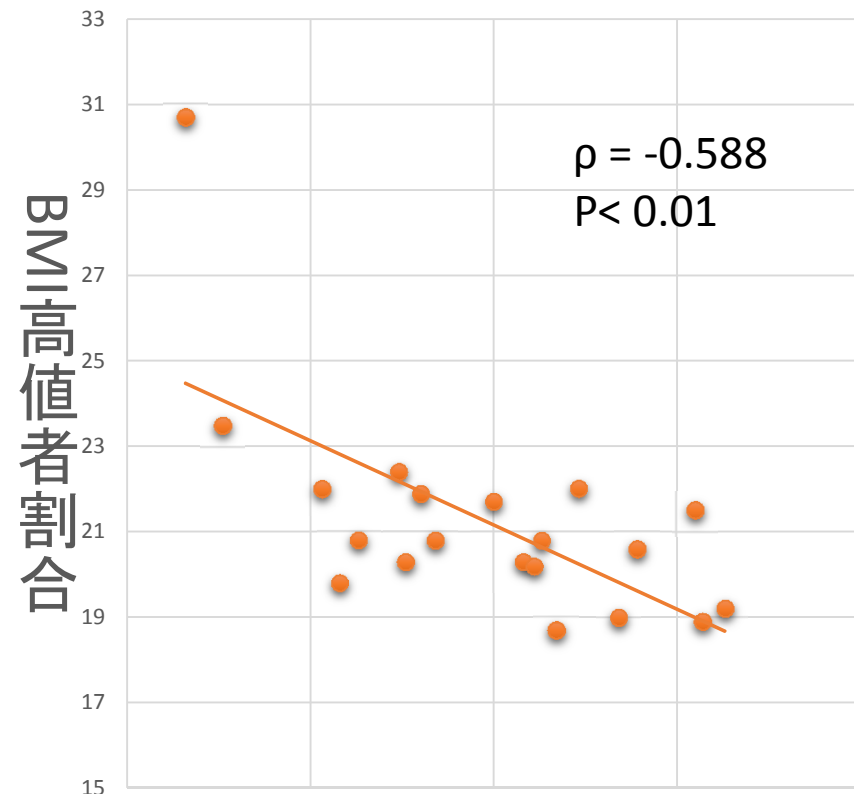
保健指導判定値

n=20コミュニティ区(61,704名)

未公表データ

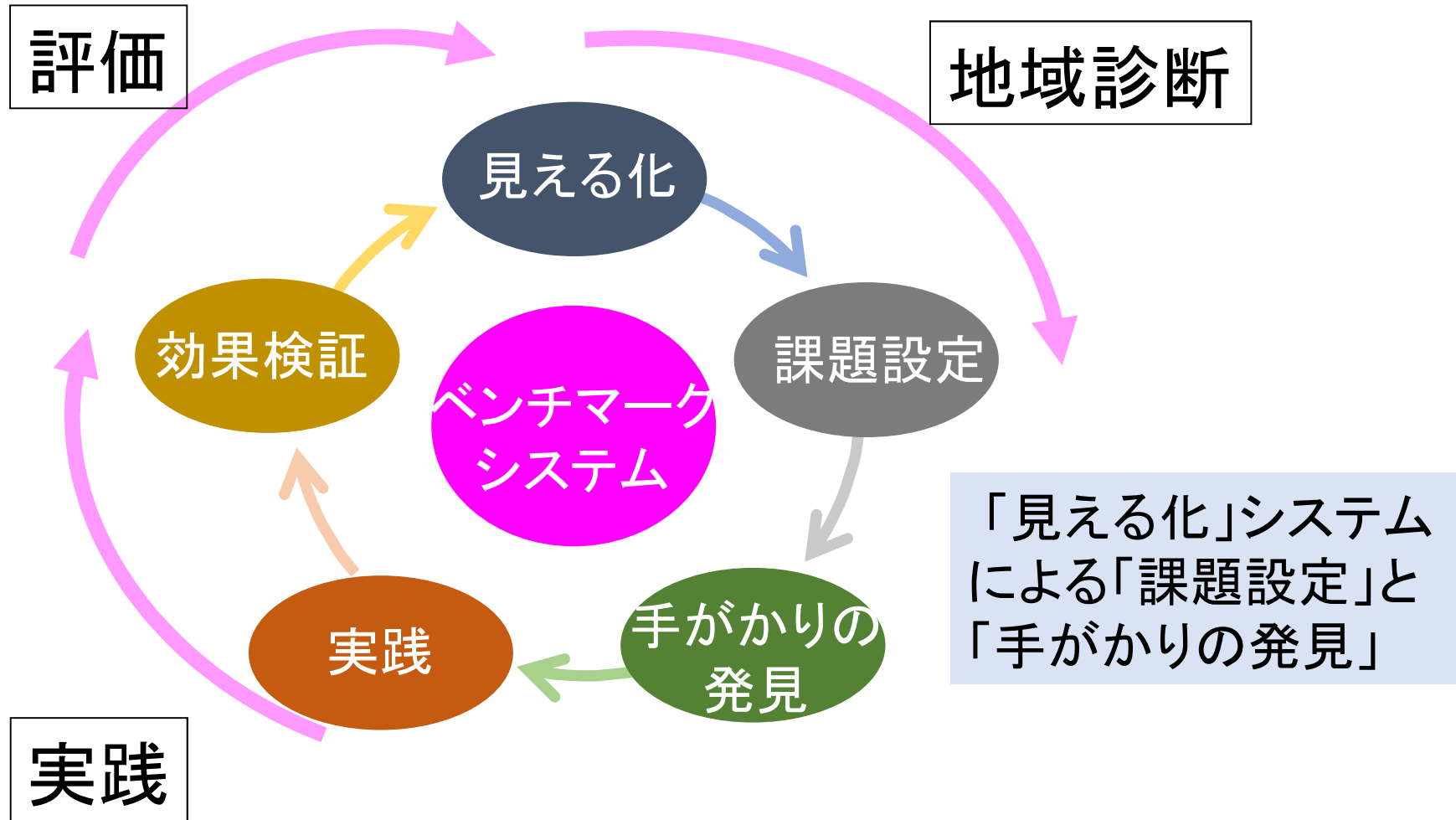


スポーツの会参加者割合
(週1回以上)



趣味の会参加者割合
(週1回以上)

「見える化」とマネジメントサイクル



※ベンチマークシステム：指標を用いた市町村間／市町村内比較

課題の「見える化」

運動機能低下 >> 前期高齢者 >> 2013

前期高齢者に限定

厚生労働科学研究補助金 (H25-長寿-一般-003) 研究班

JAGES HEART 2014

評価項目リスト

- 運動機能低下
 - 前期高齢者
 - 2013
 - 後期高齢者
 - 2013
 - 高齢者全体
 - 2013
- 低栄養
- 口腔機能の低下
- 閉じこもり
- 認知機能の低下
- 虚弱
- うつ予防
- IADL
- 知的能動性
- 社会的役割
- ボランティア参加
- スポーツの会参加
- 趣味の会参加
- 老人クラブ参加
- 独居者の割合



市町村ID	値	実数
A1	0.139	
A2	0.156	
A3	0.168	
A4	0.147	
A5	データ...	
A6	データ...	
A7	0.091	
A8	0.101	
A9	0.128	
A10	0.154	
A11	0.118	
A12	0.125	
A13	0.127	
A14	0.145	
A15	0.128	
A16	0.145	
A17	0.108	
A18	0.102	
A19	0.097	
A20	0.121	
A21	0.082	
A22	0.167	
A23	0.148	
A24	0.119	

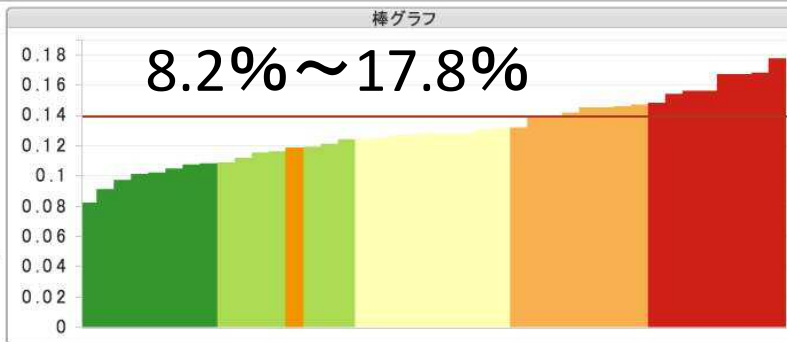
フィルターリスト

- 高齢化率
- 人口密度(人/km2)
- 人口集中地区人口比率
- [フィルターの削除]

記述統計

合計: 5,304
 市町村の平均: 0.129
 中央値: 0.128
 最小値: 0.082
 最大値: 0.178
 下位四分位値: 0.113
 上位四分位値: 0.145
 四分位値範囲: 0.032
 分散: 0.000
 標準偏差: 0.022

記述統計/脚注
 棒グラフ/時系列グ...



SHP_300.shp

比較地区	値
合計	0.126

0.082 - 0.108
 0.109 - 0.124
 0.125 - 0.132
 0.133 - 0.148
 0.149 - 0.178
 データなし

【市町村間ベンチマーク】

- ✓ 指標は「前期高齢者」「後期高齢者」「高齢者全体」の中から、いずれかを選択します。
- ✓ 評価したい指標が、他の参加市町村や小地域と比較して、どれ位多い(少ない)のか、**相対的位置**もわかります。

ボランティア参加割合：全高齢者

© 厚生労働科学研究補助金(H25-長寿-一般-003)研究班

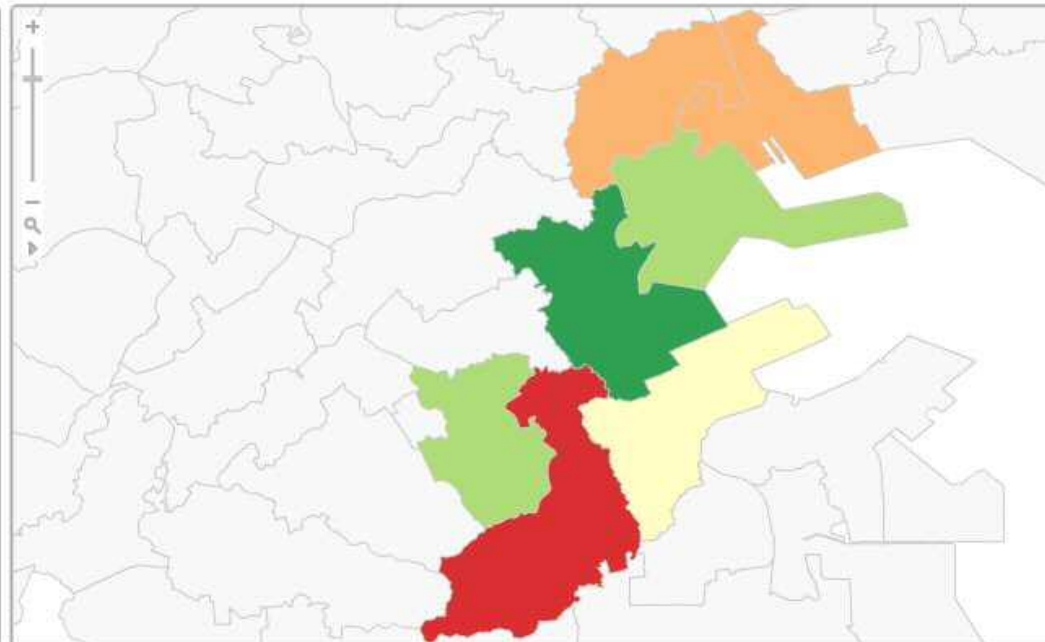
JAGES HEART 2014

ボランティア参加割合 >> 高齢者全体 >> 2013 >> フィルター:

区別 >> 磯子区

評価項目リスト

- 社会的役割低下割合
- ボランティア参加割合
 - ▼ 前期高齢者
 - 2013
 - ▼ 後期高齢者
 - 2013
 - ▼ 高齢者全体
 - 2013
- ▶ 男性
- ▶ 女性
- ▼ スポーツの会参加割合
 - ▼ 前期高齢者
 - 2013



市町村 ID	値	実数
根岸...	0.040	
滝頭...	0.070	
磯子...	0.104	
屏風...	0.151	
新杉...	0.080	
洋光...	0.106	
上笹...	0.039	

フィルターリスト

- 瀬谷区
- 磯子区
- 神奈川区
- 緑区
- 西区
- 都筑区
- 金沢区
- 青葉区

記述統計

合計: 0.590
 市町村の平均: 0.084
 中央値: 0.080
 最小値: 0.039
 最大値: 0.151
 下位四分位値:

記述統計 / ...
 棒グラフ / ...



JAGES2

比較地区

値

- 0.039 -
- 0.041 -
- 0.073 -
- 0.100 -
- 0.151 -

【市町村間ベンチマーク】

参加型活動でネットワークづくり



←ピンポン
ラリー

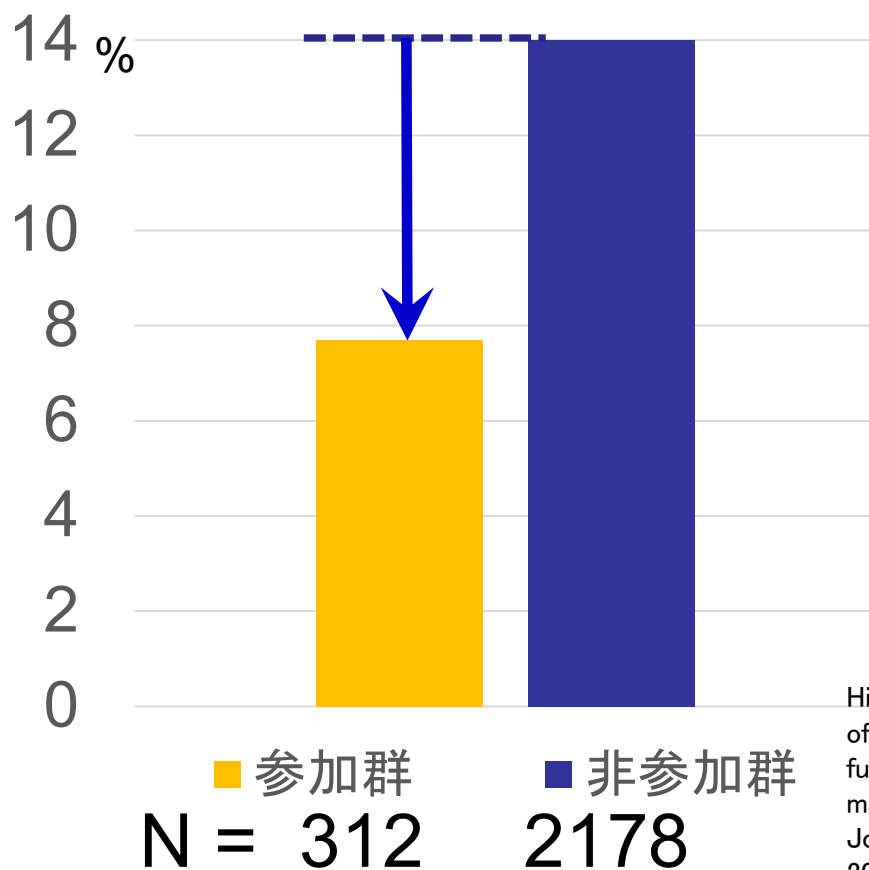
折り紙相撲→



サロン参加群で要介護認定率は半減

武豊プロジェクト

要介護認定率



2007年から2012年までの5年間の要介護認定率を参加群と非参加群で比較した

5年間で要介護認定率は約半分(6.3%ポイント)抑制されていた

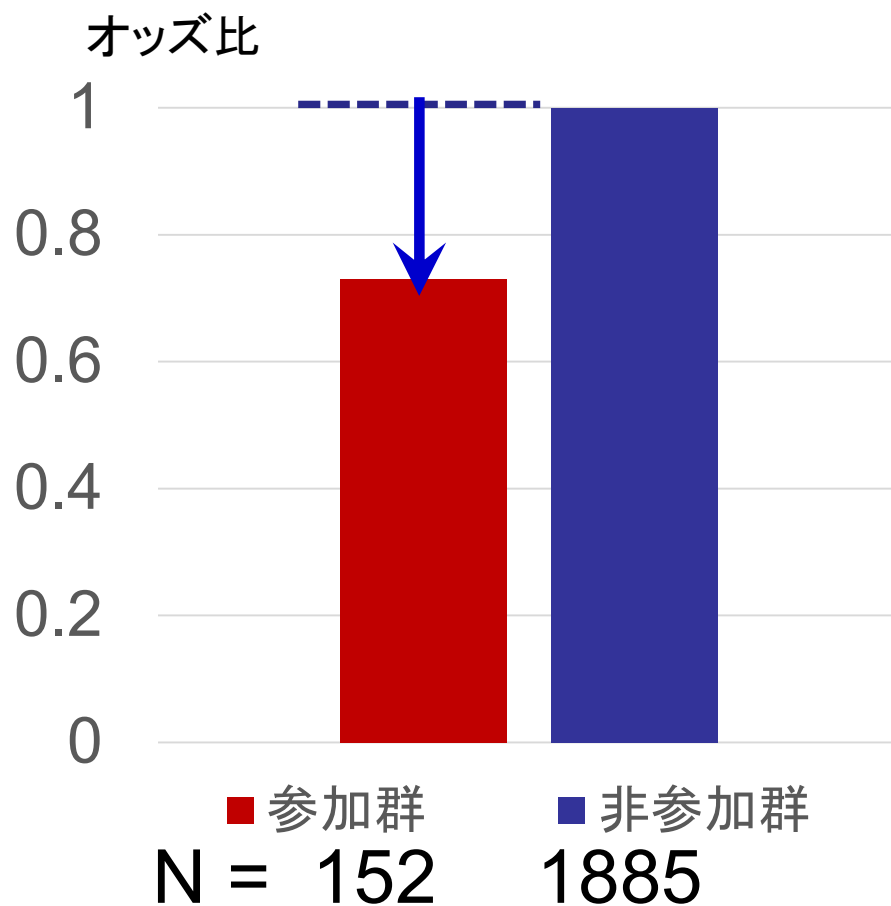
Hikichi, H., Kondo, N., Kondo, K., Aida, J., Takeda, T., & Kawachi, I. Effect of community intervention program promoting social interactions on functional disability prevention for older adults: propensity score matching and instrumental variable analyses, JAGES Taketoyo study. Journal of Epidemiology and Community Health (doi: 10.1136/jech-2014-205345)



サロン参加群で認知症発症3割減

武豊プロジェクト

認知症発症



2007年から7年間追跡
認知症度ランク1以上の
の要介護認定を受ける
確率を参加群と非参加
群で比較した

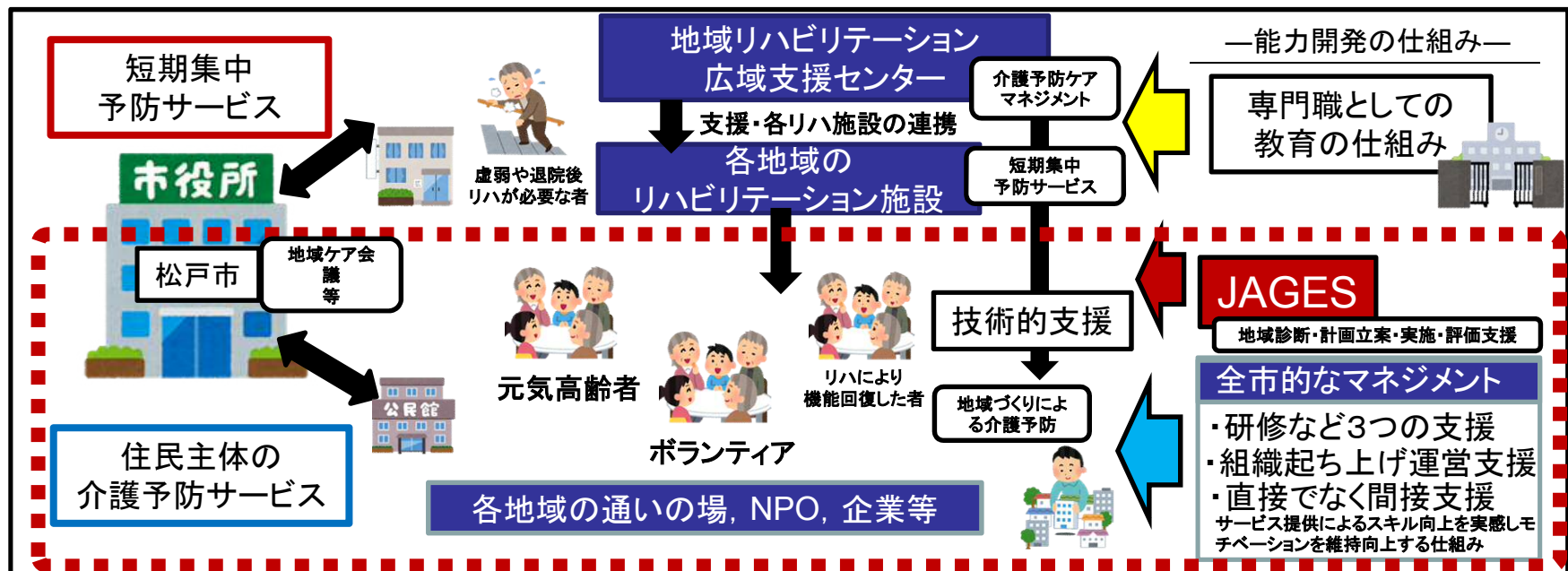
Hikichi, H., Kondo, K., Takeda, T., and Kawachi, I. (in press) Social interaction and cognitive decline: Results of 7-years community intervention. *Alzheimer's & Dementia: Translational Research & Clinical Interventions*.



松戸市とJAGES(日本老年学的評価研究)との共同研究プロジェクト

『JAGES松戸プロジェクト』の位置づけと特徴

2016年11月2日 JAGESプロジェクト千葉大事務局



<位置づけ> 住民主体の介護予防サービスの開発支援と評価研究: の部分

<特徴> 地域包括ケアの都市型モデルを開発し全市へ展開→全国に標準モデルを発信

- 地域包括ケアモデル:介護予防を中核とするが、対象は高齢者に限定しない。
- 全市的なマネジメント支援と評価:直接支援ではなく間接支援
- 3つの支援内容と2つの対象:①研修と②ネットワーキングと③評価を既存+新規の両者に
- 都市の資源活用:住民やNPOだけでなく企業や退職者などにも活躍の場を提供
- 重層的支援と評価:対象は個人・グループ・企業・地域など
- 評価でPDCA回す:個人・プログラム・地域のニーズやプロセス, 介護予防効果を評価

まとめ：介護・医療改革の行方

- 二次予防から地域づくりによる一次予防へ
- エビデンスは増えた：健診データも？
- 研究から普及のフェーズへ
- 「見える化」システムの活用
- 都市型モデル開発研究
- 生涯現役/総活躍社会の実現を

